TOMBOW

トンボ

CSRレポート2007

2006.7.1～2007.6.30

トンボ経営理念

私たちの使命

トンボブランドのもと、
最良のユニフォームメーカーをめざし、
社会に役立つ確かな価値を創造し、提供します

私たちの行動指針

・愛と汗の精神で、人を大切にし、全員経営をめざします

・信用を重んじ、約束を守り、誠実に行動します

・縁を大切にし、相手の立場を尊重します

・社会に役立つ、心の通った開発をめざします

・自然と環境に配慮した活動を行います

コーポレートスローガン

・人と自然を大切にした価値ある製品づくりを

編集にあたって

「トンボCSRレポート2007」は、2002年6月より発行の「環境報告書」から「CSRレポート」へとその報告対象範囲を拡大し、ステークホルダーの皆様へトンボのCSRへの取り組みをできるだけ分かりやすくお伝えできるように心掛けました。
編集にあたっては、これからのCSR経営のスタートラインに立ったばかりということもあり、CSR推進委員で意見を交わし、今後の突破口になればという思いで発行致しました。
尚、アンケート用紙を添付していますので、皆様からのご意見・ご感想をお聞かせ願えれば幸いに存じます。今後の報告書づくりに反映させ、一層の充実を図って参りたいと思います。

INDEX

経営理念 1
会社概要 3
トップメッセージ 5
CSRの取り組み
- ステークホルダーの皆様とのかかわり 7
- コミュニケーション 8
- 事業ビジョンと戦略 9
- 最良のユニフォームメーカーをめざして 10

環境活動報告
- 環境方針 11
- 事業所における環境負荷低減 12
- 商品での環境負荷低減 13
- 商品リサイクルでの環境負荷低減 14
- 製造工程での環境負荷低減 15
- 環境コミュニケーション 16

社会的活動報告
- VICTORYスポーツ教室 19
- 制服気づきセミナー 20
- ユニフォームミュージアム 21
- 八正会の精神 22

健全な企業風土づくり
- 私たちは守っています 23
- 安全で働きやすい職場をめざして 23
- 働きがいのある職場をめざして 24

制服と青春の思い出 25
沿革 26

会社概要

社　　名	**株式会社 トンボ**
U　R　L	http://www.tombow.gr.jp
会社設立	大正13年5月10日（創業：明治9年）
資　本　金	1億8千万円
代　表　者	代表取締役社長　落司 量則（おとし かずのり）
従業員数	664人（2007年4月現在）
本店所在地（玉野本社工場）	〒706-0224　岡山県玉野市八浜町大崎1212 TEL.（0863）51-1515　FAX.（0863）51-2526
本社事務所（岡山本社）	〒700-0985　岡山県岡山市厚生町2丁目2-9 TEL.（086）232-0311　FAX.（086）225-4094
東京支店	〒136-0071　東京都江東区亀戸2丁目34-4 TEL.（03）5626-2251　FAX.（03）5626-2265
横浜ブランチ	〒222-0033　神奈川県横浜市港北区新横浜2丁目3-10 ALFA 新横浜ビル8F TEL.（045）473-8705　FAX.（045）473-8719
岡山支店	〒700-0977　岡山県岡山市問屋町22-101 TEL.（086）241-7830　FAX.（086）241-7856
広島営業所	〒733-0842　広島県広島市西区井口5丁目3-4 TEL.（082）270-5121　FAX.（082）270-5123
兵庫出張所	〒672-8071　兵庫県姫路市飾磨区構1丁目94 TEL.（0792）31-2522　FAX.（0792）33-4522
福岡支店	〒811-2207　福岡県糟屋郡志免町南里6丁目8-1 TEL.（092）937-3730　FAX.（092）937-3750
ユニフォーム研究開発センター	〒706-0224　岡山県玉野市八浜町大崎1212 TEL.（0863）51-1517　FAX.（0863）53-9009
岡山工場	〒700-0034　岡山県岡山市高柳東町8-1 TEL.（086）252-1131　FAX.（086）253-4432
美咲工場	〒708-1523　岡山県久米郡美咲町吉ヶ原954 TEL.（0868）62-0122　FAX.（0868）62-0797
玉野物流センター	〒700-0034　岡山県玉野市八浜町大崎1212 TEL.（0863）51-1522　FAX.（0863）51-1243
紅陽台物流センター	〒706-0134　岡山県玉野市東高崎25-8 TEL.（0863）71-4466　FAX.（0863）71-4471
藤田物流センター	〒701-0221　岡山県岡山市藤田916-3 TEL.（086）296-3700　FAX.（086）296-7496

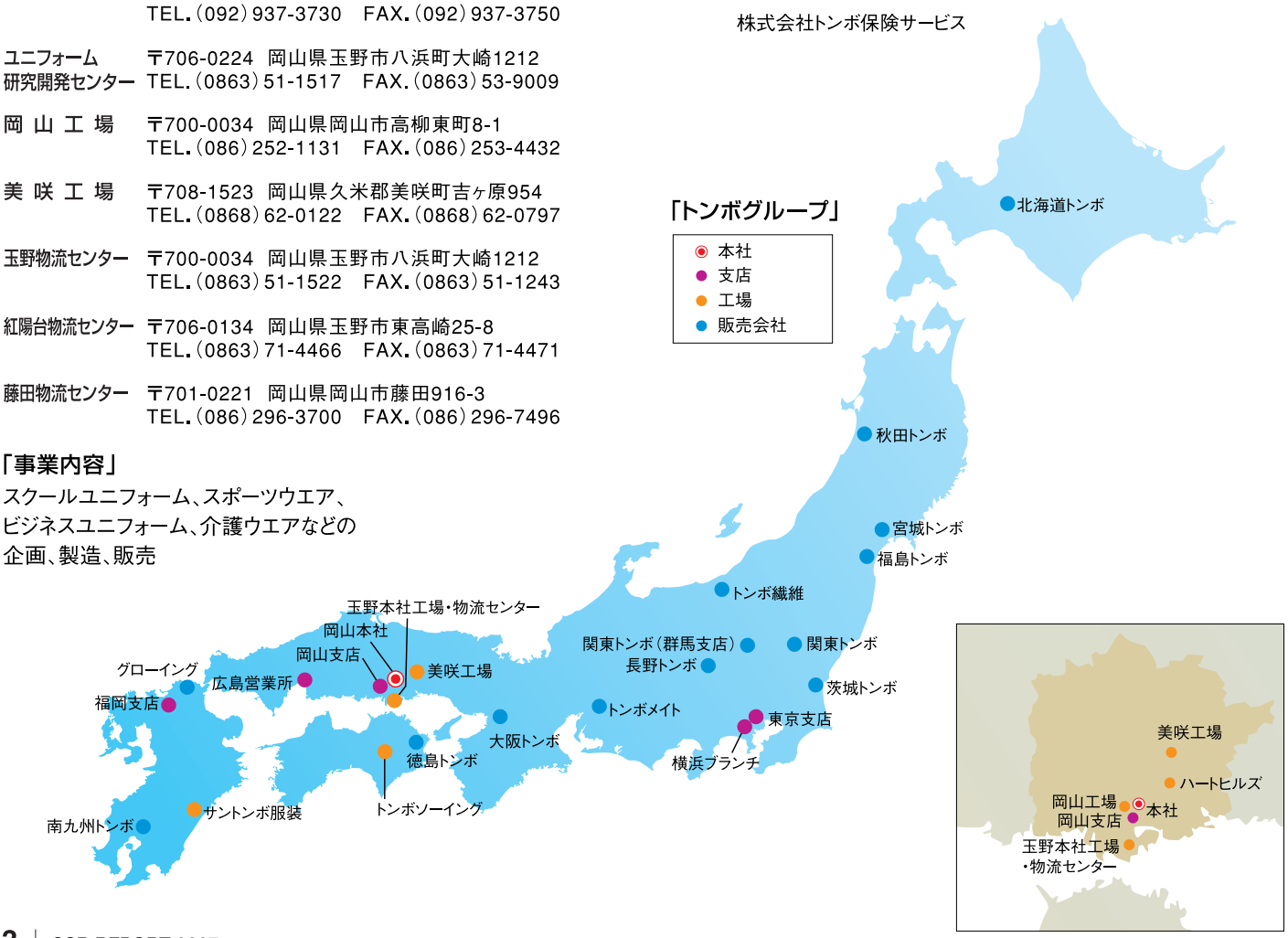
「関連会社」

北海道トンボ株式会社
秋田トンボ株式会社
宮城トンボ株式会社
福島トンボ株式会社
関東トンボ株式会社
茨城トンボ株式会社
株式会社トンボ繊維
長野トンボ株式会社
株式会社トンボメイト
大阪トンボ株式会社
徳島トンボ株式会社
グローイング株式会社
南九州トンボ株式会社
株式会社マイク
トンボソーイング株式会社
サントンボ服装株式会社
株式会社ハートヒルズ
株式会社トンボシステム
株式会社トンボ保険サービス

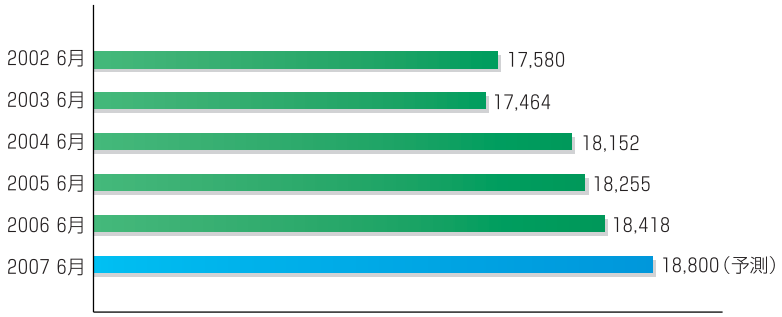
「事業内容」

スクールユニフォーム、スポーツウエア、
ビジネスユニフォーム、介護ウエアなどの
企画、製造、販売

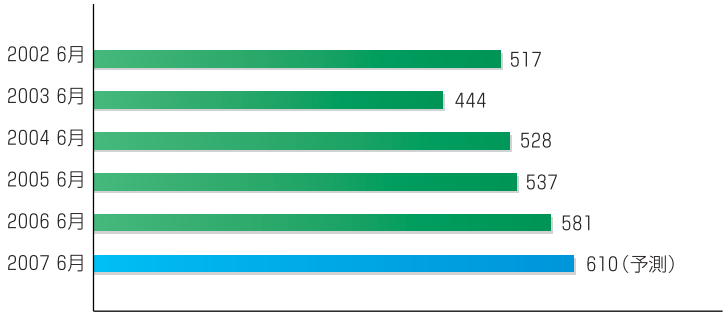
「トンボグループ」



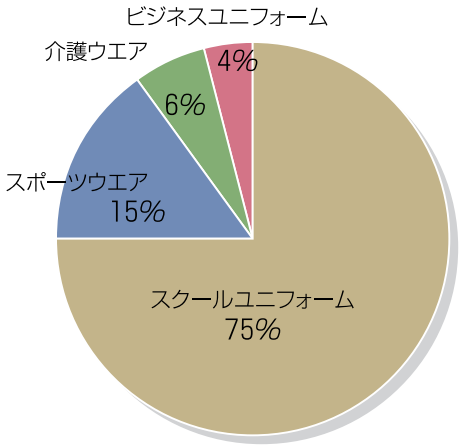
■売上推移表（単体）（単位:百万円）



■経常利益推移表（単体）（単位:百万円）



■売上高構成比率



■主要ブランド

トンボ学生服　トンボ通学服　トンボ女子通学服　TOMBOW MAX

TOMBOW VARSITYMATE　TOMBOW Primary　TOMBOW LuluSweet　トンボスポーツウエア

VICTORY　F.C. bach　AIR TOUCH　KIRAKU CARE & COMFORT WEAR

GLEN-DEE.　uniform TOKYO collection　KUROKURENAI　COMME ÇA DU MODE School Label

OLIVE des OLIVE School　h.n. hiromichi nakano　KANSAI SCHOOL FORM　Kappa

130年目のメーカー宣言、トンボに託すわが社の未来

代表取締役社長

落司量則

Q:昨年は社名変更がありましたが?

社名変更は、社名のあり方検討から始まって全国の看板架け替えに至るまで、創業130周年の節目でないと踏み切れない大きな事業でした。

ただ、社名変更というのはファーストステップで、真の意味で【メーカーに徹する】基盤づくりの最初だということです。

Q:メーカーに徹するとは?

当社はアパレルというよりもユニフォームメーカーと言った方が実態を表現しやすいと思います。

アパレルの響きには、自分のところでリスクを負って企画を出し、どこかの縫製工場で作ってもらうというニュアンスがあります。

一般アパレルは、トレンドと感性重視ですから、シーズンによって売れる服種や素材も変わり、極端に言えば使うミシンの種類だって変わることもあるので、何時でもどんなものでも対応できるように、外注工場主体の身軽な体制にしています。

当社は逆で、いったん決まった仕様の制服を、毎年4月の入学式に一人残らず同じものを納める必要があります。そのために、均一性を重視して素材の検査体制も固め、自家縫製・自家物流を整えているので、変化よりは精度重視です。

これはもうメーカー以外の何者でもないです。

また、企業の宿命である業績を伸ばすということについて言えば、売り上げを伸ばすためには、メーカー枠を飛び越え、小売進出することも考えられるわけですが、それでは、今まで当社製品を売っていただいている小売店のライバルになってしまいかねないし、小売のノウハウや人材もそう簡単には得られないはずです。

そこで、愚直なまでにメーカーに徹していこうと決めました。

そのためにメーカーしかもユニフォームメーカーにこだわり、必要な投資は積極的に行います。

本年6月から第一期工事が始まる基幹工場のリフレッシュはその一環ですが、そのようにメーカー機能に投資すればするほど、商品の顔であるブランドが大きな意味を持ってきます。

Q:そこで社名変更というわけですね

そうです。

家に例えれば、個々の商品は名前、それを作っている会社名は名字にあたります。

何々家が作るのだから、間違いがあるはずがない、と思っていただけるかどうかで企業ブランドの値打ちが決まります。

メーカーとしてこれから、商品をブラッシュアップしていくためにも、その企業名を著名で確かなものにしておく必要があるわけです。

Q:最良のメーカーを目指すと言われていますが?

最強とか最高とか言うのは、聞こえは良いが企業側の思惑

であり、お客様には意味を持たない言葉です。
制服を着る人、採用する人にとっては、満足できる商品と価格、フォロー体制があればそれで良いわけです。
逆に最大のメーカーだと、一人一人のお客様をフォローできないと思われかねないので、お客様にはデメリット表示しているようなものです。
いつもお客様の視点に立って、最良のユニフォームをいつでも供給できるメーカーであり、余計なことは考えず、軸足のぶれない経営に徹したいと思っています。
仕入先や販売店、社員一人一人にいたるまで、そのことをわかっていただくために、敢えてスローガン的に使っています。

Q:軸がぶれない経営？

企画・販売・生産・物流それぞれのパートがスムーズにつながって、やるべきことを一心不乱にしている状態というのは、コマに例えれば、軸がしっかりしていて重力バランスも取れていて、それがすごい勢いで回転している状態といえます。
同じ位置で安定して軸足がぶれないから、一見止まっているように見えます。
反対に、ふらついているコマは、一見派手で目立ちますが、それは経営方針がころころ変わる結果で、あちこちぶつかって、軌道修正を余儀なくされ、姿勢を元に戻すためにもかなりの労力がいるし、ふらつき加減によっては、倒れてしまいかねません。
どちらが良いかは、すぐわかることですが、肝心のコマの軸に当たるのが、CSR経営であると考えます。

Q:新社名ははじめて聞く人には違和感があるのでは？

そうかも知れません。
新社名は当社の代名詞とも言えるトンボ学生服に由来しているわけですが、わたしは社員の皆さんに、新社名に誇りを持って欲しいと思っています。
たしかに企業名が具体的な生き物【トンボ】を連想させるという点では異質ですが、130年の歴史を背負っているからには、ありきたりの横文字というわけにはいきません。。
結局、トンボ学生服商標が、学生服トップブランドとして知名度も高く、商品も信頼いただいているという事実が決め手になりました。
トンボ商標は、日本国を意味する古語　秋津洲（あきつしま）に由来しており、スケールが大きいと思います。
またトンボは、勝虫と呼ばれ戦国武将の兜（カブト）にも付けられたほど縁起が良い名前です。

Q:CSR経営についてのビジョンをお話ください

当社の現状は、企業としての法令遵守や社会的責任を果たしているか、つまりCSR経営を完璧にこなしているか、と言われれば、道半ばどころか、その重要性に気がついて、社員啓蒙をスタートし、同時に組織やルール整備に着手しはじめた段階といわざるを得ないでしょう。
したがって、今回の報告書は、経営の結果をステークホルダーにお見せするというよりも、これから経営の舵を切ろうとするわが社の姿をお見せするものになると思います。
何年か後に、報告書を振り返った時、こんな段階から始まり、ここまで来たと感慨が持てるような経営を目指したいものです。
それから、CSRというと何か特殊な手法かと思い勝ちですが、企業の社会的責任で最も重いのは、その会社の存在そのものと、商品やサービスが、人々の役に立ち、存在意義があることだと思います。
これを肝に銘じて、メーカーとして当たり前のことをきちんと行い、経営品質を高めることが重要だと考えています。

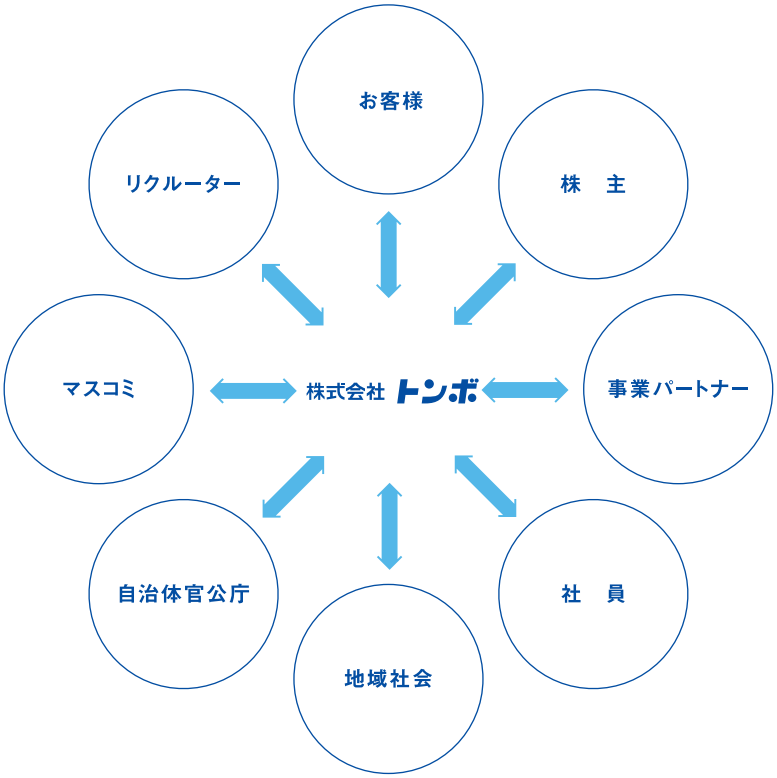
聞き手　更井 文枝（CSRレポート編集委員）

ステークホルダーの皆様とのかかわり

当社は、すべてのステークホルダーの皆様の信頼を得るため、さまざまなコミュニケーションを図っています。

当社のステークホルダー

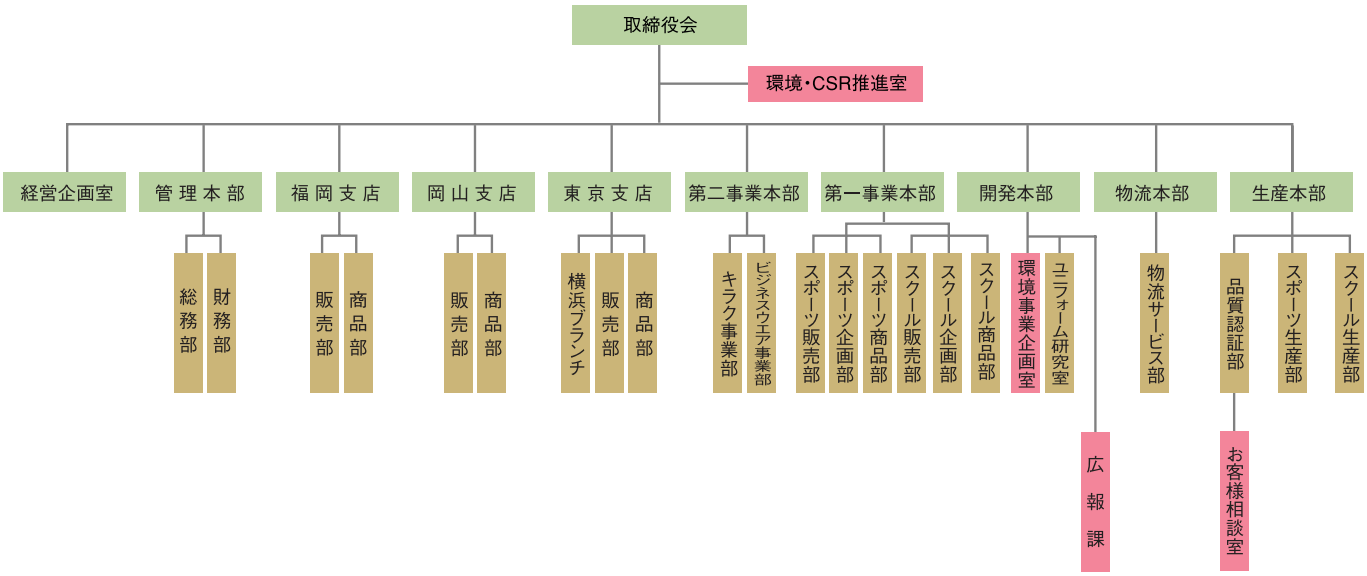
当社はお客様、株主、事業パートナー（仕入先、協力企業、販売代理店、販売店）、社員、地域社会、自治体官公庁、マスコミ、リクルーターをステークホルダーと位置づけ、大切にし信頼にこたえる企業活動を行います。



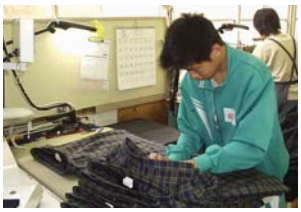
ステークホルダーに対する基本姿勢

当社と商品が信頼を得て、さらに発展するためには、双方向の良好なコミュニケーションが不可欠と考えています。
ご要望、ご意見をお聞きし、あるいは潜在的なニーズを推し測り、最終的に、世の中に必要な商品やサービスとして結実させ、社会から必要とされる企業でありたいと考えています。

CSR推進体制



コミュニケーション

ステークホルダー	主なコミュニケーション手法
お　客　様	 お客様相談室 商品カタログ ユニフォーム総合展示会・ エコプロダクツ展・国際福祉機器展　等 お客様向け商品説明会 学校向け制服情報誌『スクーラー』
株　　主	株主総会
事業パートナー	販売代理店・販売店研修 品質改善会議・意見交換会 販売会社・協力工場・仕入先オンラインシステム
社　　員 （社員OB）	 社内情報共有システム（トンボネット） 社内報 キラク親睦会（企業概況説明会・親睦会）
地域社会	 工場見学会（学校社会科見学） チャレンジワーク（中・高校生） 各種協賛（校内広報板提供） 社会貢献活動（河川清掃・ ビクトリースポーツ教室）
自治体官公庁 マスコミ	プレスリリース　　取材対応　　各種経済指標報告
リクルーター	会社説明会　　インターンシップ受け入れ
全　　体	環境・CSR推進室　　環境事業企画室　　ホームページ　　CSRレポート 会社案内　　会社経歴書

事業ビジョンと戦略

スクールユニフォーム・スポーツウエア事業

業界環境は、少子化、国の教育方針の変更、あるいは個人情報保護法や公開条例法によるビジネス手法の変更、気候変動など、さまざまな要因で大きく変化していますが、わたしたちは、学校や社会から、真に求められる商品と事業のあり方をひたすら追求しています。
そして、制服や体操服が、単なる衣服にとどまらず、連帯感や友情を深め、学ぶ気持ちを高め、学校のイメージさえ変え、その人の一生の思い出に連なるものであることを認識し、単なる制服販売から一歩進め、制服気づきセミナーやビクトリースポーツ教室などを行っています。

私たちの商品

●学校制服
学校理念、着心地や見栄えと、均一性・耐久性などを配慮し、4月入学式での全員一斉着用を可能にする製造物流体制を整えています。
●任意購入通学服
制服ではありませんが、過度なファッション性を避け、生徒にふさわしいスタイル（通学服）を追求した商品群をお届けしています。
●スポーツウエア
学校体育授業のユニフォームとして、機能や物性、耐久性と価格のバランスを追求したものと、体育授業以外にも着ることができるマルチウエアなど、豊富なラインアップを展開しています。

私たちが取り組んでいること

お客様最優先、お客様に感動いただける商品とサービスを目指しています。
①制服のプロとして、一歩進んだコンサルティングセールスの実践と、それを裏付ける知識や技能の習得
②真に必要な付加機能、付加価値の追求と、それを裏付けるリサーチ、研究開発の充実
③環境配慮型商品の比率を増やすこと、それを裏付ける事業形態の確立
④製造販売間のスムーズな連携を図るため、バックアップシステムの構築

常務取締役
第一事業本部長　近藤知之

介護ウエア・ビジネスユニフォーム事業

介護ウエア、ビジネスユニフォームは、当社130年の歩みの中では比較的歴史が浅いのですが、これからの本格的少子高齢化時代を迎え、ますますニーズの高まる分野だと考えています。
この分野は、商品開発が決め手、ニーズを掘り下げ利便性を追求し、それまでにないデザインイメージを提示することで事業に弾みがつく分野だと考え、取り組んでいます。

介護ウエア【キラク】

介護施設職員や派遣サービスの皆様、そして施設入居の皆様向けユニフォームの企画製造販売事業。
心理的、身体的に快適なウエアであることをめざし、着用時の身体的負荷軽減と、厳しい基準の工業洗濯に耐える物理的耐久性の両立を目指しています。
そのため、衣服内気候を考慮した快適素材、やさしい肌触りと、着疲れしにくいパターン、心理的にもリラックスできるデザインなど、高い技術を駆使して、イージーケアでやさしく見えるユニフォームと周辺商品を開発しています。
なお【キラク】とは、喜怒哀楽から怒りと悲しみを取り除き、着て楽な服をめざすところから来ています。

ビジネスユニフォーム

●GLEN-DEE（グレンディ）
主としてオフィス内で快適に仕事していただく衣服性能と、より魅力的に見せるデザインを追求した商品です。
●UNIFORM TOKYO COLLECTION
デザインは私服感覚、しかも耐久性や機能はヘビーな制服性能を目指した、行動範囲が広い営業系向け商品です。
●サービスウエア：クロクレナイ（黒紅）
黒に紅（朱色）をさすと、黒がいっそう深く見えるところから名付けられたブランドです。飲食接客業の定番色として欠かせぬ黒のエプロンを中心に展開しています。

取締役
第二事業本部長　八杉幸治

最良のユニフォームメーカーをめざして

創業130年の節目において、中期3カ年計画の経営指針で、【メーカーにこだわる・徹する】決意表明を致しました。世間では、脱メーカーへの動きもある中、トンボは、【メーカー】であること、それも【ユニフォーム】にこだわる【専門性の高いメーカー】を目指そうと、改めて決意しました。
120周年時のユニフォーム研究開発センター設立は、21世紀もメーカーでやっていくとの姿勢を端的に示したものであり、その精神はいささかも揺らいでおらず、そして、【ユニフォームメーカー】に、とことんこだわるからには【最良のユニフォームメーカー】になりたいと思います。
行動指針としては、トンボの如く、前進するのみで後退しない行動的で攻めの姿勢を貫き、トンボと共に、雄飛する会社を目指します。

技術の刷新と向上をめざして:新工場の建設

2期の工期に分けて、2008年9月の完成を目指します。全体では、物流センターと工場を合せ、18,000m^{2}強（内工場部分は、5,000m^2）です。新工場は、カッティングセンターとの接続により、裁断から仕上・入庫までがひとつの流れとなり、更なるクイックレスポンスを実現致します。また、工場内には技術開発を行う『トンボ工房(仮称)』を設置し、メーカーとして高い完成度の衣服を造る研究・開発を行います。

新工場完成イメージ

お客様からの信頼の向上をめざして:ISO9001認証取得と品質認証部

品質の確立と整備の為、1999年10月に、業界の先陣をきって、ISO9002を認証取得（玉野本社・岡山工場）し、2002年8月に、ISO9001を生産本部全体に拡大し、品質マネジメントシステムの充実を図っています。
品質保証の面では、2004年6月新たに、品質認証部を設立し、商品一つ一つがいつ・どこで・どのようにして作られ、合格・適合品かどうかの判定を行います。その為には、全アイテム共通での基準が必要となり、2006年1月に『トンボ品質基準』を確立致しました。
また、お客様の生の声を頂き・約束を守る為、2007年6月に、品質認証部内に『お客様相談室』を設置致しました。お客様の目線にあったモノ作りを行います。

必要なものを無駄なく造る:ユニフォーム研究開発と生産体制

各種ユニフォームのルーツ・意味合い等を探り、時代・用途にあった最適なユニフォームをご提案致します。ユニフォーム研究開発センター120ホールに各種展示と資料があります。学校制服であれば、その学校にあったデザイン・カラー・パターン・仕様を研究し、独自のパターン設計と縫製技術で、ご注文いただいた数量のみをQR生産致します。入学式前のシーズン繁忙期には、CAD・CAMをフル稼働させ、超極小ロットでの生産体制を実現致しました。そうした管理・進捗情報等は、社内のコンピュータシステムでどこからでも確認・閲覧ができます。これにより、必要なものを無駄なく造り、ロスを最小限に抑えることができます。

マーキング

CAM自動裁断機

環　境　方　針

基　本　理　念

株式会社 トンボは、創業時よりのブランド「トンボ」を旗印として、最良のユニフォームメーカーをめざし、地球環境の保全が最重要課題の一つであることを全社員で自覚し、次世代に向けてトンボが雄飛する美しい地球環境のもと、豊かで住みよい循環型社会を実現する企業活動を展開し、社会に貢献します。

基　本　方　針

1 環境マネジメントシステムの確立と継続的改善の推進

私たちは、国際規格に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、実施し、維持し、定めたテーマに沿って、環境パフォーマンスの継続的な改善活動を推進します。

2 環境保全活動の推進

私たちは、環境に与える影響を認識し、評価し、汚染の予防を含めて、環境影響を考慮した企業活動を展開します。

3 環境上の法的要求事項及びその他の要求事項の順守

私たちは、当社の環境側面に関係して適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。

4 企業活動の展開

私たちは、ユニフォームウエア等の企画、設計、製造、販売において、環境影響を考慮し、また地球温暖化防止に向け、日常業務と一体化した活動を展開します。

①環境に配慮した素材の導入と製品開発の推進。
②使用原材料に含まれる有害化学物質の安全基準の順守。
③資源の有効活用及び省エネルギーの推進。
④3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進。
⑤グリーン購入の推進。

5 自然保護活動の推進

私たちは、以下の自然保護活動を推進します。

①トンボ環境委員会活動の推進。
②トンボ絵画コンクールへの協賛支援。
③トンボと自然を考える会への協賛支援。
④学校のビオトープづくり、環境学習への側面支援。

6 環境方針の周知徹底と公開

環境方針は、社員並びに当社の企業活動への協業者に環境教育を通して周知し、全員が理解、実践できるよう啓発活動を推進します。
また、この方針は広く一般の人々に公開して、社会と共生する環境活動を推進します。

7 環境方針の見直し

定めた環境目的・目標が状況の変化に適応できるように、また環境方針が当社にとって適切かつ有効であり続けるように、私が見直しを行います。

2007年7月1日宣言

代表取締役社長　**落司 量則**

「グリーン・アイ」活動

地球環境の保全は世界中の使命であり、私たち一人ひとりの使命でもあります。トンボは、さまざまな角度から、地球環境を守るための活動を積極的に行っています。私たちの企業活動が社会に貢献し、地球を守ることにつながっていく、その活動の総称が「グリーン・アイ」です。

Green eye

事業所における環境負荷低減

内部監査

年1回、全事業所と経営者及び環境管理責任者、EMS推進事務局を対象に内部監査を実施します。内部監査チームメンバーは、リーダーを中心にして「内部監査チェックリスト」を作成し、被監査事業所・部門は、その「チェックリスト」に基づいて事前に検討会を行ってから監査に臨み、限られた時間内で効率良く監査を進めています。

内部監査員養成研修

毎年9月に「内部監査員養成研修」を実施しており、 2006年も昨年に引き続き28名を養成しましたので、これで内部監査員の総数は160名になりました。当初は部課長クラスが主体の構成になっていましたが、徐々に一般社員の内部監査員も増員されましたので、EMS推進の底上げが期待されています。

※2000年:16名,2001年:6名,2002年:9名,2003年:19名,2004年:13名,2005年:69名,2006年:28名　計160名

環境特別教育訓練

新入社員・異動者・中途入社・派遣社員など、全社員に対して、『緊急事態への準備及び対応』と『内部廃棄物の管理』などについて教育訓練を実施しています。

更新審査（外部審査）

2006年11月27～29日の3日間、全事業所と経営者及び環境管理責任者、EMS推進事務局を対象に2回目の更新審査が実施されました。今回は、認証範囲が13事業所になってから初めての更新審査でしたが、2007年1月18日のJMAQA環境部会　判定委員会で「登録維持に値するレベル」として判定され、認証取得しました。

主任内部監査員レベルアップ研修

監査チームリーダーである主任内部監査員のレベルアップのため、2006年9月中旬に「主任内部監査員レベルアップ研修」を行いました。2007年からは「主任内部監査員養成研修」としてリニューアルします。

内部監査員養成研修

内部監査及び外部審査の歩み

2000年	9月	第1回内部監査員養成研修
	11月	92期㊤内部監査(1)
	12月	ISO14001認証 第1段階審査
2001年	2月	ISO14001認証 第2段階審査
	2月	本社:ISO14001認証取得
	5月	92期㊦内部監査(2)
	9月	第2回内部監査員養成研修
	11月	93期㊤内部監査(3)
2002年	1月	サーベイランス
	5月	93期㊦内部監査(4)
	9月	第3回内部監査員養成研修
	12月	94期㊤内部監査(5)
2003年	1月	サーベイランス＋特別審査
	5月	94期㊦内部監査(6)
	9月	第4回内部監査員養成研修
	10月	95期㊤内部監査(7)
	12月	第1回更新審査
	12月	ISO14001登録改定
2004年	5月	95期㊦内部監査(8)
	9月	第5回内部監査員養成研修
	11月	96期内部監査(9)
2005年	1月	サーベイランス
	9月	第6回内部監査員養成研修
	10月	97期内部監査(10)
	11月	特別予備審査
2006年	1月	サーベイランス＋特別審査
	4月	全事業所:ISO14001認証取得
	9月	第7回内部監査員養成研修
	9月	主任内部監査員レベルアップ研修
	10月	98期内部監査(11)
	11月	第2回更新審査
2007年	1月	ISO14001登録改定

※以下は予定です。

2007年	9月	第1回主任内部監査員養成研修
	10月	99期内部監査(12)

省エネ・省資源

環境マインドの高まりが、資源のムダ使いを減らし、資源の有効利用を促進しています。

オフィスにおける紙使用量の削減に取り組んでいます。

紙使用量については全職場が、削減に向けて検討を行い、目標達成に取り組んでいます。使用している種類は、大きく分けてコピー用紙とコンピュータ連続用紙です。

徹底した省エネ活動で、使用エネルギーを削減しています。

使用電力量の低減も、環境目的目標として取り上げ、全社的に蛍光灯とパソコンを主な対象として、規定時間を超える会議・商談・外出や昼食などで席を離れる時には、電源を切ることを励行し、ムダな電力エネルギーの削減に取り組んでいます。

グリーン購入

事務用品のグリーン購入を積極的に進めています。

GPN（グリーン購入ネットワーク）に加入し、必要な事務用品は環境対応カタログより選択し購入します。

グリーン購入率＝
（環境対応事務用品購入金額÷事務用品購入金額合計）×100

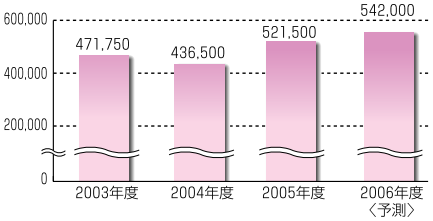
二酸化炭素（CO_2）排出量

全社規模で二酸化炭素排出量の低減に取り組んでいます。

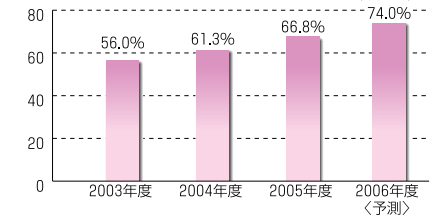
（電気、水道、ガソリン、プロパンガス、都市ガス、灯油、A重油、軽油の8項目）

全社の二酸化炭素排出量は、2002年度から2006年度にかけて1,870から1,738（▲132）t-CO_2に減り、これを売上1億円当たりのCO_2排出量で見ると、10.7から9.3（▲1.4）t-CO_2/億円になっています。弊社の二酸化炭素排出量は、電気、A重油、ガソリンの3項目で全体の94%を占め、特に電気が全体の7割を占めています。

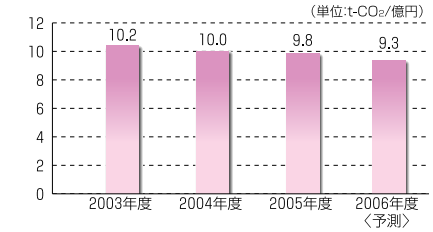
■コピー紙使用量（岡山本社）（単位:枚）



■事務用品 グリーン購入率（岡山本社）（単位:%）



■売上1億円当たりのCO_2排出量



商品での環境負荷低減

PETボトルリサイクル商品

東京都中野区立第5中学校

採用年度:2007年4月～
再生ペット使いのエコ制服という前提で機能面、着心地も評価され採用されました。上下冬夏とも国産エコマーク取得。ブレザー再生ポリエステル60%ウール40%　ボトム再生ポリエステル70%ウール30%

秋田県立男鹿工業高等学校

採用年度:2007年4月～
海に囲まれた自然豊かな男鹿半島にある工業高校。ネイビーを基調としたシンプルなデザインのKappaスポーツウエアは生徒に大人気。「アクアドライ with エコペット」はケミカルリサイクル・ポリエステル繊維を使用しています。再生ポリエステル57%・バージンポリエステル43%

JA静岡 厚生連

採用年度:2007年～
シックで上品な制服をテーマに人気投票で決定。黒ベースにベージュのチェックのあしらい、ブラウス・リボンは色も選択可能。使用素材は再生ポリエステル70%・ウール30%

岩倉建設株式会社

採用年度:2005年～
平成13年にISO14001認証取得している企業として、今回の制服変更にあたり、エコ素材を前提に女子社員の意見を取り入れ選定。女性に人気の黒のスーツにチェック柄ベスト、ブラウスはリボン付きで、白一色に統一。使用素材は再生ポリエステル70%ウール30%

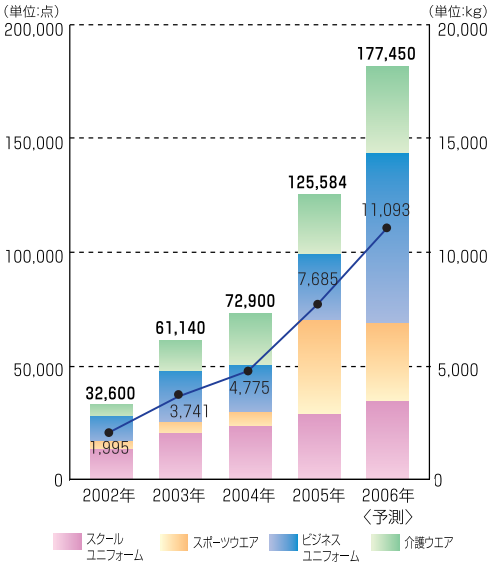
福祉施設用介護ウエア

素材混率:再生ポリエステル60%(ケミカルリサイクル繊維)・バージンポリエステル35%・綿5%を使用。エコマーク認定番号　第04103138号。色はシルバー、ピンク、オレンジ、ブルー、ネイビーの5色。

PETボトルリサイクル商品販売点数

年々使用量が飛躍的に増加している「PETボトル」。資源の再利用、エネルギー使用量の低減のためにも、その再利用は急務です。
回収された「PETボトル」から再生されたポリエステル繊維や回収された「衣服」から再生されたポリエステル繊維を使った「エコ制服」は、年々増加、販売実績も2006年度予測では昨年比約141%と大幅アップとなりました。CO_2削減量も増加しています。

■エコ商品の販売実績とCO_2排出削減量



※繊維製品(衣料品)のLCA調査報告書にもとづくCO2換算(2003年3月版)

様々な製品でエコマークを取得しています

■(財)日本環境協会 エコマーク事務局が認定するエコラベル

製品の総重量に占める再生PET繊維の重量割合が50%以上。もしくは表生地の総重量に占める再生PET繊維の重量割合が60%以上になること。回収システムについても信用できる仕組みがあれば認定を受けることができます。

エコマーク認定番号
03103099

■岡山県エコ製品表示マーク

岡山県が認定する環境ラベル。使用されている繊維のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、国内の再生PET樹脂が、製品全体重量比で10%以上使用されていること。かつ岡山県内の工場で生産された商品であることが必要です。

■日本被服工業組合連合会 国産エコ・ユニフォームマーク

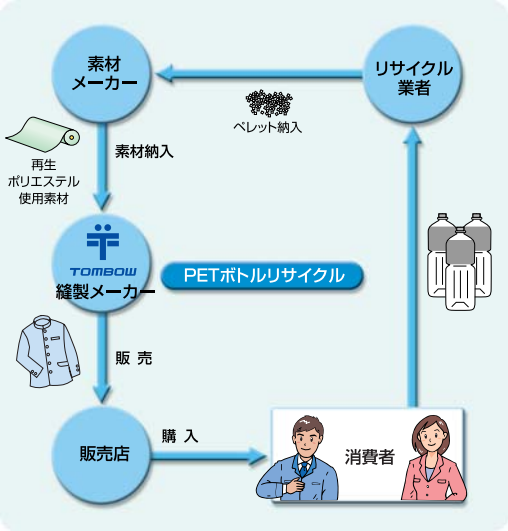
日本国内で生産された再生ポリエステル繊維を用いた国産生地を使用し、製品全体重量比で10%以上再生ポリエステル使用をしている商品です。日本国内で縫製されたものと海外で縫製されたものの2種類があります。

◆日被連国産エコマーク(日本国内で縫製)

◆日被連海外縫製エコマーク(日本国外で縫製)

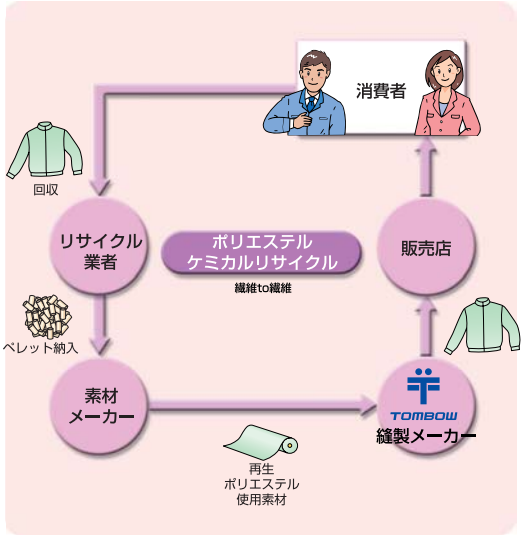
商品リサイクルでの環境負荷低減

PETボトルリサイクル



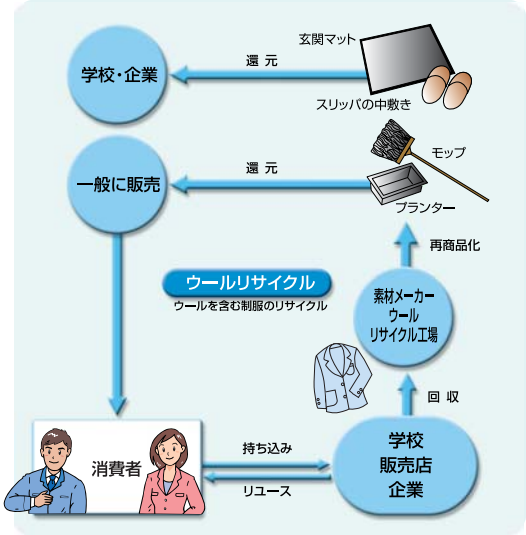
回収したPETボトルを溶かして繊維をつくり、学生服やセーラー服、シャツ、体操服などを製造しています。PETボトルから生まれる再生素材は、もともとポリエステル繊維と同じ組成の物質であるため、繊維にしやすく耐久性にも優れた制服をつくることが可能です。

ポリエステルケミカルリサイクル



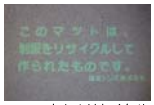
ポリエステル繊維やPETボトル・化成品といった、殆ど全てのポリエステル製品から添加剤、着色剤を分離し、石油から製造する原料と同じレベルの高純度ポリエステル原料（DMT）に戻す高度精製技術です。
バージン品と同レベルの原料を再生することで、何度もリサイクルが可能な完全循環型リサイクルシステムです。
生産時の使用エネルギー量は約7割（バージン比）、炭酸ガス排出量は約8割と省エネルギー、地球温暖化抑制などの環境負荷低減に大きく貢献します。

ウールリサイクル

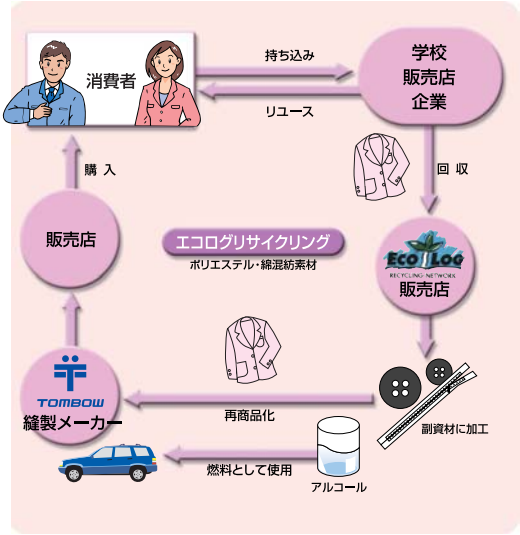


福島トンボ株式会社では、県内100以上の中学校に回収ボックスを提供しています。学校の制服のみならず家庭で使い古された衣服も回収し、マットやモップとして学校に還元する「回収型リサイクル」を推進しています。
回収リサイクルや再生PETの制服が、生徒達にとって身近なエコの教科書になってくれればとの思いで、活動を続けています。

回収された服


マットにリサイクル

エコログリサイクリングネットワーク



ポリエステルを使用した製品を回収し、分解してポリエステル部分をボタンやファスナーに、綿はアルコールにして車の燃料にするなど、再利用します。

製造工程での環境負荷低減

裁断屑の有効利用

玉野工場、美咲工場では1999年より、裁断くずを分別回収して有効活用しています。
両工場からは、毎年54tもの裁断くずが発生していました。従来は、これをそれぞれの工場で焼却処理していましたが、1999年からは裁断くずを分別回収し、再生業者に引き渡しています。これにより、焼却処理で発生していた45.36t※相当のCO_2の排出量を削減しています。

※換算係数0.84として計算

廃番原反の有効活用

美咲工場では、廃番となった原反のリユースに取り組み、近隣の小中学校や婦人会で有効利用されています。2005年の「晴れの国おかやま国体」では、美咲町の方々がこの原反でナップサックを作り、思い出のCDを入れて参加選手に記念品として贈呈しました。

パッケージにおける負荷低減

詰襟・ブレザーその他のパッケージ素材に「ケナフ・バガス」を使い、大豆油インキで印刷しています。また、各種包装付帯物も、再生紙・大豆油インキやPE・PP・PETなど環境負荷の少ない素材を採用しています。
段ボールケースは共通・共有を進めるために「規格の統一」を進めています。さらに、再利用を可能にするために無地シールを採用し、出荷・回収された段ボールケースの上にこのシールを貼って繰り返し利用しています。

環境コミュニ

マイバッグ運動を推進 ごみ減量化に向けて（一石三鳥）

不要となった残布を利用して、社内のミシン技能訓練を行い、従来は処分していた布を再利用して、買い物袋を作成し、市に寄贈しました。
予め、袋になるように裁断し、色糸等を使用してのステッチワークが模様となり、かわいいバッグができました。
社内でのごみ減量、技能訓練、レジ袋削減と一石三鳥の効果を目指して、継続していきます。

ごみ減量に活用を

トンボ 市に買い物袋贈る

ごみの減量化運動に役立ててもらおうと、学生服製造のトンボ（岡山市）が二十三日、買い物袋八十枚を市に寄付した。

買い物袋はポリエステル製で、同社本社工場（八浜町大崎）で中国人研修生がミシン技術の練習として縫ったもの。有効活用してもらおうと、環境保全活動に取り組む同社環境委員会が寄付することを決めた。

同委員会の森本康貴委員長（35）＝岡山市＝四人が市役所を訪問、森本委員長は「レジ袋削減など、ごみ減量化への啓発活動に利用してほしい。年間百枚ほど作るので、改良点があればアドバイスを」などと話し、買い物袋を黒田晋市長に手渡した。

黒田市長は「マイバッグの普及に取り組む市消費生活問題研究協議会を通じ、有効な利用を考えたい」と答えていた。

（宗宮正行）

買い物袋を黒田市長に手渡す森本委員長（右）

製造工程で発生する残反は、家庭科の授業で活かされています。

製造工程で発生する端切れ（残反）は希望される学校に差し上げています。小学校から高校まで広く家庭科の授業でマイバッグの作成等に活用されています。

ケーション

C.W.ニコル氏とともに、長野県「アファンの森」を支援しています。

当社のグリーン・アイ活動のエコパイロットであるC.W.ニコル氏は2002年5月31日にアファンの森財団を設立しました。アファンの森は、長野県黒姫の飯縄山にあります。放置されたまま、笹の葉とやせた樹木ばかりの荒地だった森を、ニコル氏が私財を投じて買いとり、友人や仲間と共に長い年月をかけて手入れし、再生してきました。アファンの森はナショナルトラスト運動を推進するとともに、森の維持管理や動植物の調査・研究・教育のフィールドとして活用されています。

C.W.ニコル アファンの森財団
http://www.afannomori.com/

茨城県「アサザプロジェクト」を支援しています。

アサザプロジェクトは、小学生からお年寄りまで、誰もが参加できる霞ヶ浦・北浦流域の自然再生事業です。流域の小学校を中心に170校以上が参加。アサザ、マコモなどの在来水草を育てる里親となり、湖岸に植え付けるなど、流域全体に広がる自然再生事業の拠点となっています。アサザプロジェクトは別名“小中学生による公共事業”といわれるほど、子どもたちが重要な役割を担っており、市民は水源の森林・里山の手入れをする一日きこりや水草の植え付けなどのボランティア活動などで応援しています。

アサザプロジェクト
http://www.kasumigaura.net/asaza/

高知県「トンボ王国」のサポートを始めて20年

当社は1986年からサポーターとしてトンボ自然公園づくりに参加しています。ここは、世界初のトンボをテーマとしたビオトープであり、トンボを追いかける子どもたちの遊び場であり、トンボの生態学習室や世界のトンボ展示室があり、子どもたちの遊びの場、学びの場ともなっています。現在では、四万十川水系の魚を展示した「さかな館」もあり、四季を通じて、多くの人々でにぎわっています。また、当社は、トンボ・ビオトープづくりを支援してきた「トンボと自然を考える会」の会員であり、多くの社員が個人会員として参加しています。

トンボ王国
http://www.gakuyukan.com/kingdom/

全国学校ビオトープ・コンクールを支援しています。

「全国ビオトープ・コンクール」は、優れた実践例を広く紹介し、学校ビオトープが持つさまざまな価値のいっそうの普及と、環境教育のさらなる発展、そして自然と共存した地域づくりにつなげることを目的としています。（財）日本生態系協会では、2年に1回コンクールを開催し、学校ビオトープの普及をはかっています。私たちは、この財団の活動を支援しています。

（財）日本生態系協会
http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/

高校生対象の「森の聞き書き甲子園」を支援しています。

全国から募集した高校生100人が、研修による指導を受けた後、『森の名手・名人100人』をじかに訪れ、名人の技や人となりを『聞き書き』し、その成果（レポート）を広く発信するものです。その目的は、都市と山村との世代を越えた交流を促進し、失われようとしている山の暮らしや埋もれかけている生業・技に光をあてることにより、森を護り、育て、その恵みを活かして持続的に循環させていくことの大切さを社会一般へアピールすることです。加えて、自ら課題をみつけ、学び、考える力を持った若者を育てることにあります。
私たちは、この活動を支援しています。

主催:森の聞き書き甲子園実行委員会
構成団体:林野庁、文部科学省、（社）国土緑化推進機構
NPO法人樹木・環境ネットワーク協会

森の聞き書き甲子園
http://foxfire-japan.com/

フォーラムでのインタビュー

植樹活動

環境コミュニケーション

絵画コンクール

トンボ絵画コンクール20年、おかげさまで日本一の絵画コンクールに

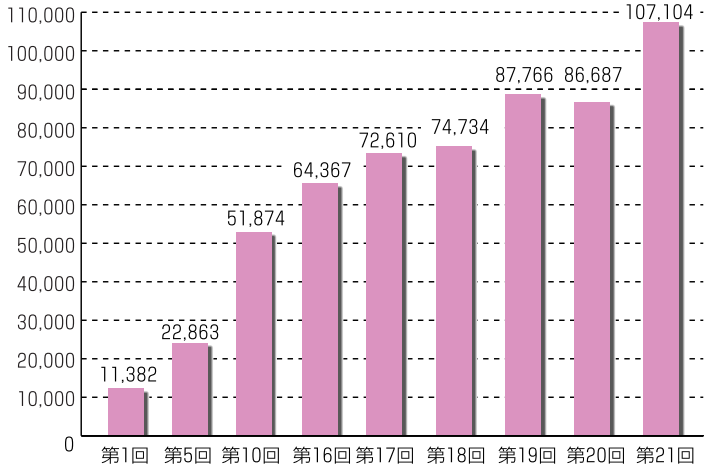
1986年、弊社創業110周年記念事業としてスタートしたトンボ絵画コンクールも、はや21回を数え、応募総数107,104点と、日本一の絵画コンクールに育っています。
朝日新聞社、朝日学生新聞社主催、文部科学省や環境省はじめ学校教育やトンボに関わる皆さまのご後援を得て、ここまで大きく育ったわけですが、元はと言えば、「トンボと自然を守ろう」の合言葉のもと、子供たちに絵を描く楽しさや喜びを味わってもらおう、そして、自然や人の営みをしっかり観察する人になってもらおう、さらには、きれいな環境で生息するトンボがいる環境に思いをはせる人になってもらおうと願って始めた運動です。
17回目からは高校生にも枠を広げ、ますます広がりを見せています。

審査風景

表彰風景

記念撮影

■応募者数 （点数）



文部科学大臣賞

環境大臣賞

環境大臣賞

文部科学大臣賞

環境大臣賞

http://www.tombow.gr.jp

トンボ絵画コンクール　検索

■主催：朝日新聞社　朝日学生新聞社
■後援：文部科学省　環境省　全国都道府県教育委員会連合　全国市町村教育委員会連合会　全国連合小学校長会　全日本中学校長会　全国高等学校長協会　全国中学校文化連盟　全国高等学校文化連盟　全国高等学校美術工芸教育研究会　日本PTA全国協議会　世界自然保護基金ジャパン（WWF Japan）　日本トンボ学会　トンボと自然を考える会
■協力：学習研究社・サクラクレパス

環境事業企画室

トンボグループ全体に月2回の環境意識啓蒙のために環境事業企画室マンスリーレポートを発行しています。
環境用語の解説や、体験したセミナー、イベントの報告などを中心にした内容です。
学校ビオトープづくりのアドバイスのほか、スクールビオトープに関するメールマガジン「トンボエコメールマガジン」の発行も行っています。スクールビオトープメールマガジンはどなたでもご覧いただけます。

お申し込みはこちらからどうぞ。
http://www.tombow.gr.jp/eco_project/magazine/index.html
また、ホームページでもバックナンバーがご覧いただけます。
http://www.tombow.gr.jp/eco_project/magazine/backnumber.html
学校向けに制服のリサイクルに関する環境教材の提供も行います。詳しくは下記をご覧ください。
http://www.tombow.gr.jp/eco_project/ecogakusyu/02.html

http://www.tombow.gr.jp/eco_project/
エコプロジェクト 検索

エコプロダクツ展、岡山エコフェスタ参加

毎年12月に東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクツ展」に参加しています。来場した小学生達に自社ブースで環境授業をしました。トンボ学生服の由来に子供たちはびっくりしたり、感心したり真剣に聞いてくれました。環境授業で使用しているパワーポイントでの「10分間環境授業」や制服リサイクル工程のキットはご希望された学校に差し上げています。
その他、地元岡山で開催される「岡山エコフェスタ」では、国産エコマークや岡山県エコ製品、トンボの棲める環境づくりの大切さをアピールしました。

エコプロダクツ展

岡山エコフェスタ

出前環境授業

小学校から高校までを対象に環境授業を行っています。
「地球誕生から現在までの環境変化」「二酸化炭素の増加と環境破壊」「自然と調和した未来のくらし」「ユニフォームのリサイクル」「ビオトープとは」といった内容で50分程度の授業になっています。
その他に環境授業は工場やユニフォームミュージアムでも行っています。

出前環境授業風景

社員ボランティア清掃

日本三大名園のひとつ後楽園（岡山市）のほとりを流れる旭川清流化のため、NPO法人「旭川を日本一美しい川に育てる会」主催の「旭川アダプトプログラム一斉清掃」に、岡山本社・岡山支店・岡山工場などから、これまでに延べ170名が参加しました。

河川清掃

岡山旭川清掃

スポーツを通して心の教育を

生徒達に、スポーツの楽しさと感動を伝えたい！
トンボが応援する「VICTORYスポーツ教室」は、各競技で活躍した選手たちが
全国の小学校、中学校、高等学校へ直接出向き、講演と実技指導を行う画期的なイベントです。

〈主催〉朝日新聞社・朝日学生新聞社
日刊スポーツ新聞社
〈後援〉全国市町村教育委員会連合会
（財）日本中学校体育連盟
（財）全国高等学校体育連盟

(2001～2007.5.30までに実施した学校)

北海道	札幌山の手高等学校
岩手県	盛岡市立河南中学校
宮城県	利府町立しらかし台中学校
福島県	郡山市立郡山第三中学校
茨城県	土浦市立土浦第一中学校
群馬県	伊勢崎市立宮郷中学校
埼玉県	越谷市立光陽中学校
神奈川県	秦野市立渋沢中学校
	横浜市立矢向中学校
新潟県	新潟県立新潟北高等学校
石川県	金沢市立西南部中学校
長野県	佐久長聖中学・高等学校
静岡県	飯山市立第二中学校
愛知県	藤枝明誠中学校・高等学校
	名城大学附属高等学校
	刈谷市立刈谷東中学校
	一宮女子高等学校
京都府	平安女学院中学校・高等学校
	京都精華女子中学高等学校
大阪府	高槻市立第三中学校
	大阪市立加美南中学校
	和泉市立北池田中学校
和歌山県	和歌山県立有田中央高等学校
	紀の川市立貴志川中学校
島根県	明誠高等学校
岡山県	岡山理科大学附属中学校
	津山市立北稜中学校
広島県	広島県立福山誠之館高等学校
山口県	山口県立下松工業高等学校
徳島県	徳島県立徳島商業高等学校
福岡県	福津市立福間中学校
	福岡舞鶴高等学校・同附属中学校
鹿児島県	鹿児島市立天保山中学校
沖縄県	那覇市立金城中学校

http://www.tombow.gr.jp

ビクトリースポーツ教室　検索

VICTORYスポーツ教室講師陣（順不同。敬称略。）

野球

衣笠祥雄

元広島東洋カープ内野手。2215試合連続出場の世界記録を樹立。87年には、国民栄誉賞を受賞。

野球

村田兆治

元ロッテオリオンズ（現千葉ロッテマリーンズ）投手。「マサカリ投法」で打者に直球勝負。現在、野球解説者。

野球

福本　豊

元阪急ブレーブス外野手。70年～82年まで、13年連続で盗塁王。通算1065盗塁は、日本最多記録。02年、野球殿堂入り。

野球

梨田昌孝

72年のドラフト2位で、近鉄バファローズに入団。正捕手として、79年の球団初となったリーグ制覇にも貢献。

柔道

山下泰裕

84年ロス五輪無差別級金メダル獲得、同年国民栄誉賞受賞。現在国際柔道連盟（IJF）教育・コーチング理事、東海大学体育学部教授。

ラグビー

山口良治

無名だった京都市立伏見工業高校のラグビー部監督に就任。ドラマにもなったその熱血指導ぶりは、あまりにも有名。環太平洋大学学監。

体操

西川大輔

88年ソウル五輪で、団体で銅メダルを獲得。92年バルセロナ五輪に出場し、ソウルに続いて団体で銅メダリストに。

サッカー

永島昭浩

元ヴィッセル神戸FWで日本代表としても活躍。決して勝負をあきらめない日本サッカー史上屈指のストライカー。

サッカー

セルジオ越後

1945年、日系2世として、ブラジルサンパウロに生まれる。72年に来日し、藤和サッカー部（現湘南ベルマーレ）で活躍。

サッカー

松木安太郎

引退後、持ち前のリーダーシップでJリーグ最年少監督となり、リーグ2連覇を果たす。現在サッカー解説者。

陸上

有森裕子

91年大阪女子国際マラソンで日本最高記録を樹立。92年バルセロナ五輪で銀、96年アトランタ五輪で、銅メダルを獲得。

陸上

伊東浩司

92年バルセロナから3大会連続の五輪出場。00年のシドニー五輪では、100、200メートルともに準決勝進出。

テニス

沢松奈生子

15歳で全日本選手権優勝。92年ウィンブルドンでベスト16。現在はキャスター、解説と広く活躍。

バスケットボール

原田裕花

二度の膝靱帯断裂からも見事復活。カムバック賞を受賞。アトランタ五輪7位入賞の原動力となる。

バレーボール

益子直美

数々の世界大会にも出場し、活躍の後、引退。現在は下町育ちのさっぱりした性格で、TVタレントとして親しまれる。

バレーボール

中田久美

15歳1ヶ月で全日本選手に。ロサンゼルス五輪では、銅メダルを獲得。その後数々の賞を受賞し引退。現在はタレントとして活躍。

バレーボール

中垣内祐一

オリンピックや世界選手権、ワールドカップの代表選手として活躍。最高殊勲選手賞2回、ベスト6は5回。05年には監督賞受賞。

※その他、趣旨に賛同いただける方々に、広くよびかけています。

制服気づきセミナー

良い制服姿の生徒を育てるために、全国規模で展開する制服気づきセミナーが好評です。

制服気づきセミナーとは

カジュアルウエアは、着こなしにルールがないのがルール、何を着ようが、どのように着ようが着用者の自由です。
しかし、ユニフォームは違います。
生徒や社員の着こなしが見苦しいと、その人の所属する学校や企業までイメージダウンし、また、着る当人たちも規範意識が低下し、やる気喪失や注意散漫で、まわりも巻き込み業績低下の悪循環に陥る危険性があります。
特に学校は、勉学の集中心を高める環境づくりが重要ですから、学習態度や着崩しのひどい少数の生徒が、まわりに悪影響を与え、その場全体が堕落することを防ぐ必要があります。
そこで、トンボは、高校生を主対象に、制服の意味と意義、着こなしのルール、場面や機会別のドレスコード（服装規定）などを伝え、生徒が自分の問題として考えるきっかけになるよう、『制服気づきセミナー』を学校のご要望に応じ全国で開催しています。
また、さらにその効果を上げるため、先生向け、保護者向けにも、制服指導のあり方を提言しています。
このセミナーは好評で、年々ご要望が多くなり、2001年に開始以来延べ450校を超えています。

ユニフォームミュージアム（ユニフォーム研究開発センター）

創業120周年の記念事業として開設されたユニフォーム研究開発センターは独自の制服文化の担い手として広く貢献しています。

ユニフォームのある素敵な生活を提案します。

日本が和装から洋装に変わるキッカケは、明治初期の制服導入と言われています。
その後、日本の近代化とともに、学校や職場にユニフォームが定着し、現在のような多彩なユニフォーム文化が花開いたのです。
そして、豊かさの質が問われる今、ユニフォームは学校や企業の個性を表現するとともに、そこに学び、働く人々の在り方までも視野に入れた、快適で素敵なウェアである事が求められています。
トンボは、ユニフォーム研究開発センターを創業120周年事業として開設し、日本の近代史を彩ったユニフォームの歴史と先人の英知に学ぶとともに、人々の未来に向けて、より良いユニフォームを創造提案しています。

歴史と文化を一堂に、UNIFORM MUSEUM。

文明開化の掛け声とともに始まった明治初期から現在まで、歴史的にも貴重なユニフォームを集めたのが、日本初のユニフォーム・ミュージアムです。詳細な文献調査の上で集められたユニフォームは、明治期の軍服や鉄道、郵便配達夫の服から女学校の華麗なドレスを初めとして、ユニフォームの華と称されるフライト・アテンダントの最新ユニフォームに至るまで、日本の歩んできた道を示すとともに、あらためて日本を考えさせてくれる良き教材です。

http://www.tombow.gr.jp

ユニフォームミュージアム　検索

ユニフォーム研究開発センター

玉野事業所全景

はっしょうかい

八正会の精神

財団法人八正会は、岡山県内の高校生に対して奨学金を給付する育英事業団体です。

年2回の研修会

研修会風景

入会式

「八正会」の概要

八正会は、初代社長三宅保正が昭和31年より私財を投じて始めた育英事業で、昭和35年に財団法人設立の許可を受けました。
本財団の目的は、岡山県内に在住し、県下の高等学校へ進学を希望しながら、経済的理由により修学困難と思われる生徒に対して奨学援助を行い、社会有為の人物の育成に寄与することにあります。これまでに約600名の生徒を送り出しています。

財団法人　八正会

名称の由来

仏教の八正道の教えに由来し、八つの正しい道（正見、正志、正語、正業、正命、正精神、正念、正定）を修業していくことを目的としてネーミングされましたが、創業の地である八浜の八と保正の正を組み合わせた名称としても親しまれています。

初代社長　三宅保正について

明治の多くの実業家がそうであったように、企業を営利目的だけの組織とは考えませんでした。事業を通していかに社会に貢献できるかを考え、自社製品と関連の深い学生など若い世代の育成に力を注ぎました。この保正の精神の結実ともいえるのが財団法人八正会であり、初代理事長を務めました。
社の内外を問わない奉仕の精神は、多くの人々の認めるところとなり、昭和16年に紺受褒章、昭和41年に勲五等端宝章を受章。また昭和43年に玉野市名誉市民に推挙されました。昭和47年10月16日死去。

三宅保正

私たちは守っています

■商品の品質管理〈ISO9001〉

商品やサービスにおいて、安全性・環境保全・機能・信頼性を追求します。また、お客様相談室を設置し、商品・サービスの向上を目指します。

■適正な品質表示の対応

家庭用品品質表示法・不当景品類及び不当表示防止法に基づき、適正な品質表示を行い、消費者に製品の性能や取扱い方を伝えます。

■納期厳守

お客様からのご注文に対し、自社工場の強みと、事業パートナーとのSCM（サプライ・チェーン・マネジメント）体制を活かし、納期を厳守します。

■環境活動

全事業所でISO14001認証取得し、環境負荷軽減の活動を進めています。

■コーポレートガバナンス

ステークホルダーとの良好な関係と、持続的な企業価値向上の為に「役員会」「経営会議」「管理者会議」による意思決定の仕組みを設けています。また、監査役による監査及び、社外審査員による審査を実施しています。

■企業広報

CSRレポート及びホームページ、その他コミニュケーション手段により、企業活動の報告を実施します。

■海外研修生の受入

「トンボ国際交流事業協同組合」を設立し、中国から研修生を受け入れています。
当社の縫製技術を習得するだけでなく、社会人として成長する過程をサポートします。

安全で働きやすい職場をめざして

「人を大切に」、これはトンボが経営理念のひとつとして掲げる言葉。私たちの事業は、多くの人々とのご縁にささえられています。その「縁」を大切にすることが、すべての事業の基本であると考えます。

■健全な労使関係

労働組合「トンボユニオン」と健全な労使関係にあり、従業員の労働条件などについて交渉・協議を行っています。

■安全な職場づくり

月1回の安全衛生委員会の開催ならびに職場内安全パトロールを実施しています。
障害者用トイレの設置やバリアフリー設計による障害者への安全に配慮しています。

■託児所施設

従業員が安心して働ける環境を整えるために、昭和43年から、1歳以上5歳未満までの乳幼児をあずかる託児所を玉野本社工場内に設けています。

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
託児所利用者（人）	14	13	11	12	10

■育児休業・介護休業制度

1年間（最長1年6ケ月）の育児休業制度ならびに6ケ月間の介護休業制度を設けています。

女	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
育児休業取得者（人）	3	2	5	0	4

■再雇用制度

60歳定年後も引続き勤務する意思のある人を対象とした再雇用制度を設けています。

		2005年	2006年
定年到達者（人）	男	4	4
	女	6	14
再雇用者（人）	男	1	2
	女	1	7

■従業員の健康への配慮

労働安全衛生法の趣旨に則ったさまざまな取り組みを行っています。
・「心の健康」に重点を置いた「メンタルヘルスセミナー」の実施。
・定期健康診断の結果に基づいた専門医による生活指導。
・喫煙ルーム等の設置による分煙化の推進。

■障害者雇用

障害をもった方がいきいきと働ける職場づくりを目指しています。

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
障害者雇用率（%）	2.07	2.02	1.98	1.76	1.69

働きがいのある職場をめざして

人材育成

トンボでは人材育成を3つの側面から構成し、個人の能力アップをサポートしています。

1.トンボスクール（能力開発研修）

2006年度より教育体系を更に充実し、トンボスクールを構築

- トンボスクール
  - 〈社内研修〉
    - 専門職能資格者研修
      - ・副主事研修
      - ・評価者研修
      - ・マネジメント研修
      - ・幹部候補生スクール
    - 階層別研修
      - ・新入社員研修、新入社員フォロー研修
      - ・一般職研修
      - ・総合職研修
    - 専門研修
      - ・セールスパワーアップ研修
      - ・計数研修
      - ・プレゼン力アップ研修
      - ・MD研修
    - 一般研修
      - ・メンタルヘルス研修
      - ・修養団みがく講習会
      - ・QCスクール
      - ・EMS、QMS内部監査員養成研修
    - グループ会社研修
      - ・セールス研修
  - 〈外部派遣研修〉
    - ・パターンメイキング研修
    - ・マーチャンダイジング研修
    - ・繊維素材の基礎知識
    - ・品質管理、苦情事例研究

2.目標によるマネジメント

期首に個人の1年間の目標を立て、自律的なマネジメントサイクルにより目標達成を目指します。
目標の設定は会社の方針と個人目標を連動させ、また個人の3年後のビジョンも考えてもらいます。
目標の設定、半期面接、期末面接とポイントでは常に上司と部下で話し合いが持たれます。

3.自己啓発援助

通信教育を推奨しており、受講期間内に修了した場合には受講料の援助金が給付されます。今年も186名と多くの社員が受講し、修了者155名で、修了率は83.3%となっています。
講座の内容としては、一般教養コース、能力向上コース、資格取得コース、と様々に準備されています。更に昇格要件のコースもあり、人事制度とも連動しています。

表彰制度

社員の努力を評価、表彰する制度を設けています。

■ 提案制度

業務改善活動として、個人でおこなう「個人提案」と、チームでおこなう「チーム提案」があります。
提案用紙や報告書、発表会などをとおして審査され、表彰、賞金が支給されます。
2005年度の総提案件数は2514件で1人平均5.65件でした。

■ 資格制度

自己啓発の一環ではありますが、資格取得を応援しています。
会社が奨励する資格取得者には、お祝い金が給付されます。

- ・衛生管理者
- ・日商簿記
- ・システムアドミニストレーター
- ・危険物取扱者
- ・電気工事士
- ・ボイラー技士
- ・技能士（縫製、パターン、設備補修等）
- ・繊維製品品質管理士
- ・販売士
- ・ビオトープ計画管理士
- ・ファッションコーディネイト色彩能力

その他

制服と青春の思い出

制服の思い出

誰もが遠い昔を振り返る時、金ピカのボタンがついた丸襟の学生服を着て通った小学校の頃を思い出すだろう。

毎日の激しい遊びで汚したり、破いたり…よく袖口で鼻を拭いたっけ…中学・高校・大学はツメ襟の学生服、昔はどこも画一化された同じ学生服だった。

おしゃれ心が出てきて、他の人よりいかに格好良く着るか悩んだことも…懐かしいな…現在では制服も著しく進化して、デザインやカラーもとてもすばらしいものになってきている。

制服に憧れて学校を選ぶ人もいるやに聞いている。素敵な制服はいつまでも心に残り、その制服に誇りが持てる教育をしてもらいたいと願うものである。

バレーボールとセーラー服

制服の思い出…やはり初めて制服を着た中学生の時。

中学からバレーを始め、3年間で身長が約12cmも伸び、スカートの丈を何度伸ばしたか!私の時代はスカートの丈が長いと“不良”と見られてしまうので（笑）一気に伸ばすわけにもいかず、その度に母に少しずつ丈を出してもらっていました。

そして1年生の頃にはまだバレー部の毎日のキツイ練習に慣れず、家に帰って制服のままリビングのソファでバタンキュー!!

そのまま朝を迎えくしゃくしゃの制服のまま、朝練に行く、ということを何度繰り返したことか…!制服の思い出＝青春の思い出ですね!

制服と青春の思い出

小学校5年生の時に父に連れて行ってもらったプロ野球観戦がきっかけで、私は“将来はプロ野球の選手になる”という志を持った。

中学から高校生まで、その志のおかげで“夢と希望”にあふれていた。学生服を見ると夢に向かった当時の自分の姿がよみがえる。写真は昭和42年、ドラフト1位でオリオンズ入団記者会見のひとコマ。学生服最後のシーンで、今でも心に刻んでいる感動の瞬間だ。

※昭和42年、東京オリオンズ（現・千葉ロッテマリーンズ）入団記者会見の時。右は濃人監督、左は永田オーナー。

山口良治

無名だった京都市立伏見工業高校のラグビー部監督に就任。ドラマにもなったその熱血指導ぶりは、あまりにも有名。環太平洋大学学監。

益子直美

数々の世界大会にも出場し、活躍の後、引退。現在は下町育ちのさっぱりした性格で、TVタレントとして親しまれる。

村田兆治

元ロッテオリオンズ（現千葉ロッテマリーンズ）投手。「マサカリ投法」で打者に直球勝負。現在、野球解説者。

トンボの商標について （80年史より）

日本は世界一蜻蛉の多い国であります、日本の国を「秋津洲（アキツシマ）」ともいゝ、この「秋津」とはトンボのことです。
即ちトンボは日本を表徴し、しかも子供に親しまれる益虫であります。
更に「アサヒ」は将に太陽の天に昇るところ即ち日出づる国としての、日本の表徴であります。
ここのアサヒにトンボを組み合わせた図柄は、我国の発展を祈る真心より弊社の商標といたしたものであります。

マーク・ロゴタイプの変遷

戦前に使用のアサヒトンボの商標

昭和23年より使用のアサヒトンボの商標

昭和30年より使用のトンボの商標

昭和30年より
トンボ学生服
Tombow

昭和45年より
Tombow

平成元年より
TOMBOW

平成18年より
トンボ学生服
TOMBOW

トンボひとくちメモ

日本はトンボの国

その昔、日本のことを「秋津洲」と呼んでいました。「あきつ」とはトンボの古い呼び名。つまり、日本はトンボの国だったのです。日本書紀によると、大和の地で即位された神武天皇が小高い丘の上から国見をされた折、「あきつのとなめ（交尾）せるが如くあるか」と仰せられたことがきっかけとされています。

トンボは勝虫

古事記によると、雄略天皇が狩りをされた時休憩中に虻(アブ)が腕を刺しました。そこにトンボがやってきて、そのアブをさっと捕まえていったそうです。同天皇はこのことを歌に詠まれ、それ以降トンボは「勝虫」と称され特に戦国時代の武将達に勝利の証として貴ばれるようになったそうです。

トンボの天敵は？

トンボは世界で5,000～6,000種類いるといわれています。日本では約200種類が知られています。高知県四万十市の「トンボ王国」では、その中の74種類のトンボを見ることができます。トンボは幼虫(ヤゴ)・成虫共に肉食です。自分より大きな昆虫にも向かっていくトンボの一番の敵は、自然を破壊する「人間」にほかなりません。

沿　革

1876年 （明治9年）	●三宅熊五郎により創業
1908年（明治41年）	●初代社長三宅保正が事業を継承
1910年（明治43年）	●「キラクたび」を主要商標として登録
1924年（大正13年）	●法人設立、帝国足袋株式会社と称す
1930年 （昭和5年）	●学生服の生産・発売を開始。現在のトンボ学生服の第一歩である
1944年（昭和19年）	●帝国興業株式会社に社名変更
1945年（昭和20年）	●学生服・足袋再生産開始 紡績部門を設ける
1955年（昭和30年）	●学生服・作業服・トレーニングパンツJIS規格表示許可工場となる
	●テトロン製品生産開始
1965年（昭和40年）	●丸洗い（ハイウェイ）学生服誕生
1970年（昭和45年）	●スポーツウエア専門柵原工場建設
1974年（昭和49年）	●テイコク株式会社に社名変更
	●本社事務所岡山に移転
	●岡山工場　新築移転
1975年（昭和50年）	●創業100周年
	●S.I（スクールアイデンティティ）提唱
	●オンラインシステム導入
1980年（昭和55年）	●本社事務所 岡山駅前に移転
	●玉野流通センター完成
1983年（昭和58年）	●業界初のウール50%ウォッシャブル学生服誕生
1984年（昭和59年）	●本社工場コンピュータ・グレーディング・マーキングシステム導入
1986年（昭和61年）	●創業110周年記念事業として「WELOVEトンボ」絵画コンクールを始める
1989年（平成元年）	●デザイナー山本寛斎氏と提携、「KANSAI SCHOOL FORM」販売開始
1990年 （平成2年）	●デザイナー桂由美氏と提携し、ビジネスユニフォーム販売開始
1993年 （平成5年）	●本社工場内にカッティングセンター設立と自動裁断システムの導入
1994年 （平成6年）	●デザイナー中野裕通氏と提携し「ヒロミチナカノスクール」販売開始
1996年 （平成8年）	●創業120周年事業としてユニフォーム研究開発センター設立
1997年 （平成9年）	●介護、リハビリウエア「KIRAKU」販売開始
1999年（平成11年）	●ISO9002品質マネージメントシステム（QMS）認証取得
2001年（平成13年）	●ISO14001環境マネージメントシステム（EMS）認証取得
	●「コムサデモード・スクールレーベル」販売開始
2002年（平成14年）	●ISO9001品質マネージメントシステム（QMS）認証取得
	●本社事務所　岡山市厚生町に移転
2003年（平成15年）	●「オリーブ デ オリーブ・スクール」販売開始
2006年（平成18年）	●ISO14001環境マネージメントシステム（EMS）認証取得（全13事業所）
	●創業130周年に「中期3ヶ年計画」発表
	●株式会社トンボに社名変更

トンボCSRレポートに関するお問い合わせ先

株式会社トンボ　環境・CSR推進室
〒700-0985　岡山市厚生町2丁目2-9
E-mail　kankyo@tombow.gr.jp
TEL.（086）232-0368　FAX.（086）225-6680

※当レポートに掲載されている内容・写真の無断転載はお断りします。

第21回「We Loveトンボ」絵画コンクール
文部科学大臣賞　小学1年の部　松野　愛梨さん

株式会社トンボ　人と自然を大切にした価値ある製品づくりを

PRINTED WITH SOY INK　R100
このCSRレポートは、古紙配合率100%再生紙を使用し、アロマフリー大豆油インキで印刷しています。